# Agilent EZChrom *Elite*

## XML レイアウトコントロール

## ご注意



### Edition

August, 2006

Document Revision 1.0 B

Printed in USA

Agilent Technologies, Inc.
6612 Owens Dr.
Pleasanton, CA 94588-3334

### Warranty

The material contained in this document is provided “as is,” and is subject to being changed, without notice, in future editions. Further, to the maximum extent permitted by applicable law, Agilent disclaims all warranties, either express or implied, with regard to this manual and any information contained herein, including but not limited to the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose. Agilent shall not be liable for errors or for incidental or consequential damages in connection with the furnishing, use, or performance of this document or of any information contained herein. Should Agilent and the user have a separate written agreement with warranty terms covering the material in this document that conflict with these terms, the warranty terms in the separate agreement shall control.

### Technology Licenses

The hardware and/or software described in this document are furnished under a license and may be used or copied only in accordance with such license.

### Restricted Rights Legend

If software is for use in the performance of a U.S. Government prime contract or subcontract, Software is delivered and licensed as "Commercial computer software" as defined in DFAR 252.227-7014 (June 1995), or as a "commercial item" as defined in FAR 2.101(a) or as "Restricted computer software" as defined in FAR 52.227-19 (June 1987) or any equivalent agency regulation or contract clause. Use, duplication or disclosure of Software is subject to Agilent Technologies’ standard commercial license terms, and non-DOD Departments and Agencies of the U.S. Government will receive no greater than Restricted Rights as defined in FAR 52.227-19(c)(1-2) (June 1987). U.S. Government users will receive no greater than Limited Rights as defined in FAR 52.227-14 (June 1987) or DFAR 252.227-7015 (b)(2) (November 1995), as applicable in any technical data.

# 目次

# 1. 本書の使い方

## はじめに

この取扱説明書は、XML レイアウトレイアウトコントロールの作成および EZChrom *Elite* システムで使用する方法について記載しております。レイアウトコントロールは、装置条件の設定を表示する EZChrom *Elite* のフィルタメソッドレポートで使用されます。レイアウトコントロールは、FormatXMLData メソッドを実装しなければならない Visual Basic® ActiveX®コントロールです。

| 注意 | この取扱説明書は、参考例のみ記載しております。この取扱説明書に記載されているプログラムまたはアプリケーションに関するテクニカルサポートの権利はありません。テクニカルサポートには当社とのサポート契約が必要です。 |
|---|---|

## 本書の対象者

この取扱説明書は、EZChrom *Elite* システムのカスタムアプリケーションを作成するソフトウェアエンジニアを対象としています。

## 表記規則

本書で使用される表記規則を下表に示します。

| 表記 | 説明 |
|---|---|
| **太字** | データベース名、テーブル名、カラム名、メニュー、コマンド、ダイアログボックスオプション、およびテキストなど入力が必要なもの |
| *斜体* | ユーザが入力すべき情報が別にある場合、例えば、ユーザが *ServerName* を入力する場合、イタリックの表記部分の代わりに、実際の名称を入力してください。 |
| 等幅フォント | プログラミングコードのサンプルとテキストの表示。複数行に印刷される以外、1 行に入力されるコードは、アンダーライン（_）によって分けられます。コードを入力する時は、アンダーラインを入力しないでください。 |
| 大文字 | キーボードの入力キー。プラス記号(+)との組合せがある場合は、その二つ以上のキーを一緒に押してください。例えば、SHIFT+TAB を押してください。 |

# 2. 概要

EZChrom *Elite* では、標準的なメソッドレポートは、固定のフォーマットで現在のメソッドの、一つ以上の情報を出力します。レポートに、ピークテーブル、インテグレーションイベントおよび装置条件パラメータのようなセクションが含まれている、あるいは省略されているオプションを含んでいても、レポートする情報をより細かく設定することはできません。

EZChrom *Elite* Ver3.2 から、フィルタメソッドレポートと呼ばれる新しいレポートオブジェクトを搭載しました。フィルタメソッドレポートは、プログラマが標準的なメソッドレポートのコンテンツをユーザーの必要な情報だけにカスタマイズ（フィルタリング）する ActiveX コンポーネントを作成することを可能にする機能です。

この取扱説明書は、フィルタメソッドレポートを実行するための ActiveX コンポーネントの作成、およびインストールをするための仕様を記載しております。

# 3. 要素

ActiveX は以下の要素を公開しています。

## FormatXMLData

この要素はレポートに入力する文字列を取得し、任意の Extensible Stylesheet Language (XSL)に基づきフォーマット化し、文字列の配列としてレポートに返します。

**構文**

```
FormatXMLData (
        [IN] ByVal strXMLReport As String,
        [IN] ByVal strXSLStyle As String,
        [OUT] ByRef varPlainReport As Variant,
        [OUT] ByRef nErrorCode As Long
    )
```

**パラメータ**

*strXMLReport*

XML の全てのレポートデータを含んでいる文字列。

*strXSLStyle*

XSL ファイルのフルパス名。NULL 文字列が可能です。

*varPlainReport*

レポートする XML に含んでいる文字列の配列をテキスト形式で返します。

*nErrorCode*

要素コールの成功または失敗を示すエラーコードを返します。

0 - 成功

1 - 不正な XML レポート

2 - 不正な XSL ファイル

3 - テキスト形式のレポートの作成に失敗

**戻り値**

なし

以下に示すように、レイアウト用の入力する XML データのフォーマットは、詳細ノードから成ります。

```
    <XMLMethodReport>
    <Details/>
</XMLMethodReport>
```

Detail 部は、XML フォーマットのレポート文字列があるサブセクションを含みます。これらのサブセクションのフォーマットは、どのように装置制御ドライバの要素インターフェースの「FormatXMLMethodSettings」機能で生成されるかによって決まります。

# 4. レイアウトコントロールのインストール

レイアウトコントロールをインストールするために"Layouts.ini"(クォーテーションマークがない)コンフィグレーションファイルを使用しています。

1. レイアウトを追加します。Elite インストール先ディレクトリにある ini ファイルは、レイアウトコントロール名に加え、それらのユーザフレンドリー名及び任意の XSL ファイル名を含まなければなりません。
2. フォーマットは以下のようになります:

```
[PropertiesForXMLReport]
TotalLayouts=2
[Layout1]
DisplayName=Sample VB Layout
ControlName=SampleXMLLayout.TextLayout
XSLName= SampleXSL
[Layout2]
DisplayName=Sample VB Layout2
ControlName=SampleXMLLayout.TextLayout2
```

```
XSLName=
```

[PropertiesForXMLReport] セクションにおいて、TotalLayouts キーはインストールされたレイアウトコントロールの番号を示します。各レイアウトコントロールのプロパティは[Layout*n*]セクション(*n* にはコントロールコンフィグレーションのユニークな番号を割当ます)にて示されています。

Display Name キーは、ユーザーが簡単にコントロール選択ができるように作成した Filtered Method Report で使用される名前を表示します。これは義務的なキーであります。

ControlName キーは、Filtered Method Report テーブルのインスタントであるレイアウトクラス名を表示します。これも義務的なキーであり、Control Name キーによって参照された OCX を登録しなければなりません。

XSLName キーは XSL ファイル名を表示します。ユーザーは、レイアウトコントロールに問合せし、この XSL ファイルを使用して、XML レポートデータ(FormatXMLData API call からコールします)のスタイルに適用します。

XSL ファイル名はレイアウトに記述されています。Ini ファイルは、絶対パスを含む.xsl 拡張子無しの純粋なファイル名であります。すべてのファイルはレイアウトコンフィグレーションファイルにより参照され、アプリケーションのインストール先ディレクトリに存在します。

3. レイアウトコントロールを ChromatographySystem*installpath*\key(*installpath* がインストール先ディレクトリを参照する場合、0001 を設定します。) の“InstalledItems” レジストリキーに追加します。

[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ChromatographySystem\0001\InstalledItems]

"SampleXMLLayout.ocx"=dword:00000001